

# HCTCセミナーを開催しました

日時：令和5年10月21日（土） 13：00～15：35

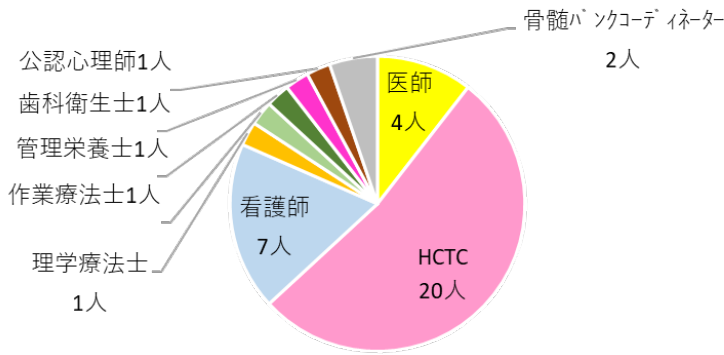
方法：ハイブリッド開催

（現地会場及びZoomにてオンライン配信）

移植医療におけるACPをテーマとして、グループワーク+講演という形で初めてハイブリッド開催をしました。

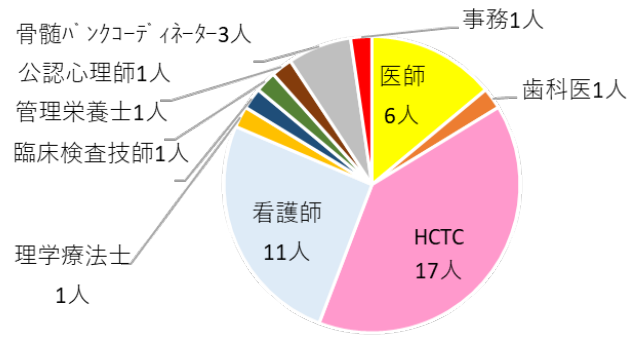
今回のテーマに多くの関心が寄せられ、会場に参加された方からもライブ配信で参加された方からもたくさんの感想をいただきました。

第1部参加者 職種内訳



38人中

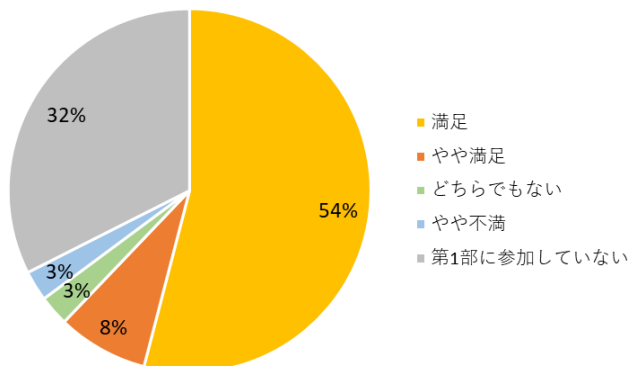
第2部参加者 職種内訳



43人中

## アンケート結果 (37件の回答)

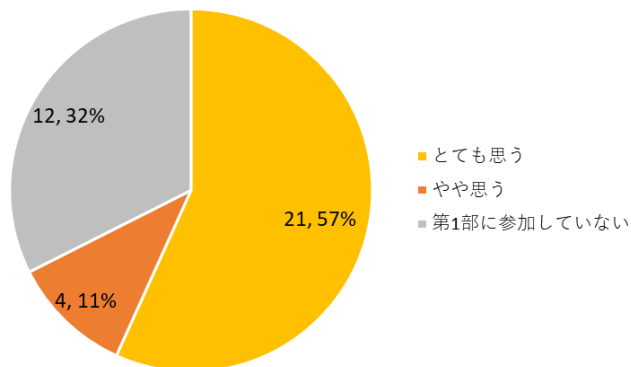
問1. 第1部のグループワークの全体的な内容はいかがでしたか



## 問2. 問1のようにお答えになった理由をご記入ください

- ・患者さんの様々な問題とHCTCの方の仕事内容を、具体的に知ることができたから。
- ・多職種でのグループワークができて勉強になったから。
- ・HCTCの方が、まずどのような情報を必要としているのを知ることができたから
- ・ほしい情報を待つのではなく、紹介元に用紙を記入してもらう方法など、今後取り入れてみたいと思ったから。
- ・グループワークにもう少し時間がほしかったから。

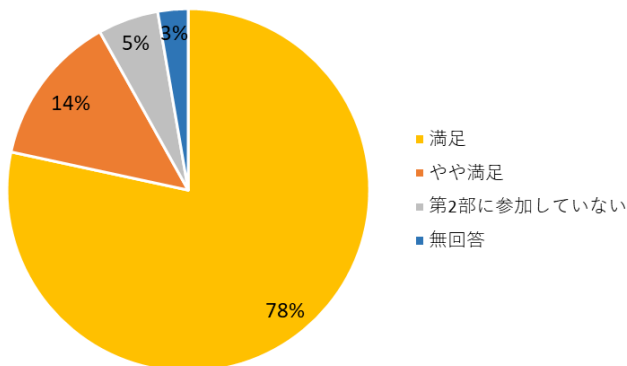
## 問3. 第1部のグループワークは今後に役立つ内容でしたか



## 問4. その他 第1部についてご感想やお気づきの点がありましたらご記入ください

- ・後学になり、自分と共通意見を伺うと自信になった。
- ・HCTCや看護師等、多職種の方々とお話することは、その方々の話し方、雰囲気からコーディネートを想像したりでき、とても勉強になった。こういう話し方だと話が聞きやすいな、とか、あるいは落ち着いた声だと安心して家族のことを話せるな、と感じられた。
- ・看護師もHCTCも転院時の情報として希望する項目は同じものもあった。HCTCが看護サマリーを情報源としているとは思っていなかったので、サマリーの内容の充実を心がけたいと思った。

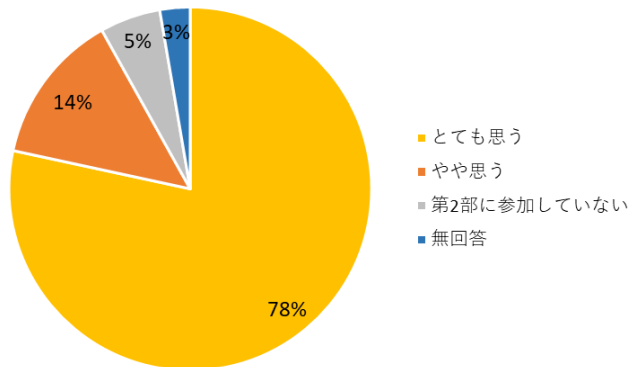
## 問5. 第2部の全体的な内容はいかがでしたか



## 問6. 問5のようにお答えになった理由をご記入ください

- ・ ACPを難しく捉えていたが、日常的なところで少し意識すれば出来ると感じたから。
- ・ 高齢化社会になり、これからの医療において延々と続く問題。とても心に響く内容だった。
- ・ 医師の考え、他の医療者の思い、患者の思いも様々で、ACP介入の難しさを改めて感じるとともに、必要性もとても感じる事ができたから。
- ・ 緩和ケアの現在の概念を知ることができ（いつから緩和ケアが始まるのか等）、移植医療に限らずACPや緩和ケアが患者本人・家族の支えになると感じたから。
- ・ ACPの考え方を再認識し、その必要性と介入の難しさを感じた。医師はあまり積極的になれないことだと思うので、HCTCから医師へ働きかけていきたいと思う。

## 問7. 第2部の内容は今後役に立つ内容でしたか



## 問8. その他 第2部についてご感想やお気づきの点がありましたらご記入ください

- ・ 話をするタイミング等迷っていたため参考になった。
- ・ もっと長い時間お話を拝聴したかった。
- ・ 外来通院中、在宅医療における緩和ケアが充実するとよいと感じた。
- ・ 移植後のイメージを、患者さんや家族がどうとらえているか、どのように説明していけばよいのか難しいと感じた。
- ・ 赤川先生のご講演の中で「本人の希望に添っていることが多い」お話と、福永先生のご講演での患者さんの「必ずしも自分の意向が尊重されなくてもよい。医師や家族の考えでよい」といった内容について、経験上、認知に問題はなくても高齢者や体調が悪い時は考えがまとまらないことがあると感じている。本人の希望＝医師や家族の考え、となればよいが、家族も本人の「あなたが考えて、みんなのいいようにして」という言葉は、その時もその後も重荷になるものだと思う。普段から本人と家族が会話をしていること、その中で本人の考え方などを理解でき、スタッフと共有できるとよいと感じた。その時々で考えはもちろん違うことがあると思うので難しいとは思いますが、本人と話をするときのアプローチの参考になるのかな、と思った。